

【別添2】

北海道網走桂陽高等学校 古典探究 年間指導計画(2単位)				A 時間		B 時間		C 70時間			計 70時間							
				単元名														
				4月	5月	5・6月	6・7月	7・8月	8・9月	9月	9・10月	10・11月	11・12月	1～3月				
科目の目標 (1) 知識及び技能 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 (2) 思考力、表現力、判断力等 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通じた先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 (3) 学びに向かう力・人間性等 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。				古文		漢文	古文	古文	漢文		漢文	古文		漢文				
				説話(一)		故事・寓話	随筆(一)	説話(二)	漢詩の鑑賞		不思議な世界	随筆(二)		三国志の世界				
学年	第2学年普通科	担当	榎 亮一															
使用教科書		標準 古典探究(第一学習社)																
指導領域				C 読むこと	古	古	漢	古	古	漢	漢	漢	古	古	漢			
授業時数の計				70時間	6	6	6	6	6	4	4	6	8	6	12			
指導事項																		
知識及び技能	(1)	ア	古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増やすことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。	○				○							○			
		イ	古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めること。				○						○					
		ウ	古典の文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めること。					○					○					
	(2)	エ	古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めること。							○				○				
		ア	古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めること。			○					○			○				
		イ	古典を読むために必要な文語の決まりや訓読の決まりについて理解を深めること。	○		○				○		○						
		ウ	時間の経過による言葉の変化や、古典が現代の言葉の成り立ちにもたらした影響について理解を深めること。								○			○				
エ	先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めること。			○									○					
思考力、判断力、表現力等	C 読むこと	ア	文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えること。				○		○			○						
		イ	文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えること。	○									○					
		ウ	必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価すること。			○	○											
		エ	作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察すること。				○	○			○			○				
		オ	古典の作品や文章について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりすること。	○		○							○					
		カ	古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりすること。							○				○				
		キ	関心を持った事柄に関連する様々な古典の作品や文章などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めること。			○			○							○		
ク	古典の作品や文章を多面的・多角的な視点から評価することを通して、我が国の言語文化について自分の考えを広げたり深めたりすること。								○			○						
教材名																		
※各単元の目標について (1) 「知識及び技能」の目標及び、「思考力、判断力、表現力等」の目標については基本的に指導事項の文末を「～できる。」として示す。 (2) 「学びに向かう力、人間性等」の目標については、いずれの単元においても当該科目の目標である「言葉がもつ価値～他者や社会に関わろうとする。」までを示す。 ※各単元の評価規準の設定について (1) 「知識・技能」の評価規準は当該単元で育成を目指す資質・能力に該当する[知識及び技能]の指導事項の文末を「～している。」として作成する。 (2) 「思考・判断・表現」の評価規準は当該単元で育成を目指す資質・能力に該当する[思考力、判断力、表現力等]の指導事項の冒頭に、指導する一領域を(「領域名」において、)と明記し、文末を「～している。」として作成する。 (3) 「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準は、①粘り強さ(積極的に、進んで、粘り強く等)、②自らの学習の調整(学習の見直しをもって、学習課題に沿って、今までの学習を生かして等)、③他の2観点において重点とする内容(特に、粘り強さを発揮してほしい内容)、④当該単元の具体的な言語活動(自らの学習の調整が必要となる具体的な言語活動)を全て含め、単元の目標や学習内容等に応じて、その組合せを工夫することが考えられる。文末は「～しようとしている。」として作成する。				十訓字抄	古今著聞集	画竜点睛(歴代名画記)	徒然草	沙石集	中国の詩	日本の詩	枕草子	赤壁の戦ひ						
				古文訓字抄	小式部内侍が大江山の歌のこと	【言語活動】名人の話	奥山に、猫またといふものありて	除夜弟妹に寄す(白居易)	【言語活動】菅原道真と白居易	【言語活動】菅原道真と白居易	【言語活動】清少納言と漢文	【言語活動】貴族の生活と年中行事	【言語活動】『三国志』と三国志演義					
				一つの返し	和泉式部			峨眉山月の歌(李白)		鬼を売る(搜神記)								